

<「知るっば！久留米」 令和3年5月20日(木) 12:30~放送分>

筑後川のエツ ～第3回～ 「エツ漁」

<ゲスト：エツ感謝祭実行委員会委員長 高山良徳さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今月は、初夏の風物詩『筑後川のエツ』をテーマに、お話をお伺いしています。

ゲストはこの方です。

ゲスト:高山さん(以下「高山」)

こんにちは!城島町のエツ感謝祭実行委員会委員長の高山です。

よろしくお願いします。

坂本 よろしく申し上げます。

3回目になります今日は、『エツ漁』についてお話を伺ってまいります。

先週の放送では、エツが産卵するために筑後川を上ってくるという事でしたけれども、

いわゆる餌をつけて釣り竿で釣れる魚ではないという事でした。

なかなか興味深かったんですけども、

じゃあ、実際はどんな方法で漁師さん達が漁をされているのか教えてください。

高山 筑後川での漁は、長さ8m位の小さな舟で川に網を流す「流し刺し網漁」という漁法なんですよ。

長さが150m、幅が1.5m位の網を張って、川の両側に流すような感じで、

上流に向かって泳いできたエツが網にかかるという漁です。

海面から深さ1.5m位の所だけに網を張るので、

網の下の深いところを泳ぐエツはなかなかとれないですね。

坂本 エツは、釣り竿ではなくて、網で獲るということですよ。

では、150mもの長い網を張って、実際、どれくらい獲れるんでしょうか？

高山 そうですね、これが潮加減、水温とか色々なことが関係していて、なかなか獲れないんですよ。

多いときは何十匹ものエツが網の中で銀色にきらきら光るんですけどすぐにわかるんですけども、

網を張って流しても1匹も獲れないという事もあるんですよ。

坂本 なかなかご苦労があるんですね。

テレビで海のサンマ漁みたいにピチピチ跳ねてたっぷり獲れるというようなことは？

高山 ないですね・・・。

坂本 ないんですよね。私も広報の仕事をしていますので、漁師さんを取材したことがあるんです。最初はいっぱい獲れると思って期待して取材に行くんですけど、上がってきた網にエツが1匹2匹ぐらいの感じてした。やっぱりそんなもんなんですかね？

高山 そうですね。

坂本 エツ漁は、大変なご苦労があるなと思います。

高山 城島の汽水域での漁になるので、潮の満ち引きや流れに大きく影響されます。遡上しやすい流れになると、たとえ深夜や早朝でも、漁師さんは川に出て、網を張って流して漁をされているんですよ。なかには上流に遡上した後、下流に帰ってくるエツもいるんですけど、網に刺さる向きが逆になったりするので、下流から上流に上っていくエツを「上リエツ」、上流から戻ってくるエツを「下リエツ」と呼んでいます。

坂本 有明海から15km位上っている筑後川でも、潮の干満や流れというのは結構大きくて、それが漁に影響しているということですよ。最近、梅雨時期に大雨が降って、筑後川の水もかなり増えたりするんですけど、そういった環境変化などの影響も出ているんじゃないですかね？

高山 そうですね。毎年、そこが1番の悩みどころなんです。大雨が降ると上流から大量の真水と一緒に土砂やゴミなんかが流れてくるので、せっかく漁がしやすい状況になっても、エツが下流に流されたり、隠れたりすると、なかなか獲れないですよ。エツ漁は、天候とか気温、水温など色々なことに左右されて、本当に難しいんですよ。

坂本 エツの漁獲量なんですけど、近年は減っているという話もお聞きしているのですが、最近、どれくらい獲れているのでしょうか？

高山 福岡県の統計では、昭和50年代には100トン前後獲れていたそうなんですよ。

坂本 100トンってまあまあな量ですね。

高山 そのころから減少傾向にあって、近年は20トン前後で推移しているそうです。多少増える年もあるようですが、45年程前に比べると、5分の1ぐらいになっているそうです。

坂本 なかなか厳しいですね。それって大雨とかそういったことも影響しているんですか？

高山 筑後川と有明海を取り巻く環境の変化が大きな要因という事でしょうね。エツの産卵できる場所が減っていることも非常に大きいと思います。

また、先ほど話した大雨とか、色々な環境の変化があると思いますよ。

坂本 人間にとって筑後川とか有明海の治水を行うということは、暮らしが安定し、安全安心な生活ができるということではあるんですけども、自然のエツにとっては、産卵とか生育が難しくなっているという側面もあるのかなと思いますね。他に何か環境変化以外でも、捕獲量減少の原因とかあるんですか？

高山 そうですね。これは何の仕事でもそうでしょうけど、エツ漁をする担い手、漁師さんの高齢化と後継者が減っていることで、エツ漁をする人が少なくなっているんですよ。これがエツの漁獲量の減少につながっているひとつの要因だと思います。今の漁師さんは、他の仕事との兼業の方も多いですよね。昭和の頃と比べると、漁師さんの生活スタイルが変わっていることも要因だと思います。

坂本 漁師さんを取り巻く環境の変化も、エツの漁獲量減少と関係しているという事ですよ。そんな状況でもエツ漁は城島の風物詩なので、いつまでも残ってほしいと思いますよね。今は、何か取り組みなんかあったりしますか？

高山 エツの資源保護のために、漁協と福岡県が連携してエツの生態を解明して、養殖する手法を開発して、受精卵や稚魚の放流などの事業を行っています。筑後川の恵みであるエツは、漁師さんだけでなく観光業や飲食業にとっても貴重な資源なので、これからも大切に守っていきたいと思っています。

坂本 はい、高山さん興味深いお話をありがとうございました。久留米市城島町では、7月20日までエツ漁が行われています。地元の料亭や居酒屋、すし店でエツ料理を堪能できます。初夏の風物詩エツの味をぜひ味わってください。次回は、シリーズ最終回になります。『エツを味わう』をテーマにお送りします。お楽しみに！